



Application

初代培養ラット大脳皮質アストロサイトの蛍光免疫染色

製品名

マイクロディッシュ
 μ -Dish 35 mm, high, ibiTreat (ib81156)

メーカー名

イビディ
Ibidi 社

下記フィードバックは、山梨大学大学院 医学工学総合研究部 薬理学教室 篠崎陽一講師、井村誉史様、森澤陽介様、柴田圭輔助教、藤下加代子助教、小泉修一教授の御厚意により掲載させていただきました。

初代培養ラット大脳皮質アストロサイトの蛍光免疫染色について、ガラスボトムディッシュ、一般的なカルチャーディッシュ、ibidi社プラスチックボトムディッシュ (μ -Dish) を比較しました。

使用条件

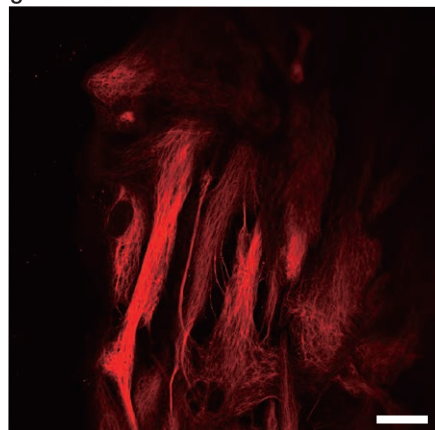
細胞名 : 初代培養ラット大脳皮質アストロサイト
顕微鏡・撮影装置 : Olympus FV-1000
細胞培養容器 : ibidi μ -Dish 35 mm, high (ib81156)
培地 : Gibco DMEM培地 (5% FBS, 5% HS, penicillin (200 U/mL), streptomycin (200 μ g/mL))

アッセイプロトコール

1. 1×10^5 cells/mLの細胞懸濁液を μ -Dishに0.5mLで播種
2. 1週間インキュベートした後、4% PFAで固定
3. 抗GFAP抗体 (1: 4000) で染色

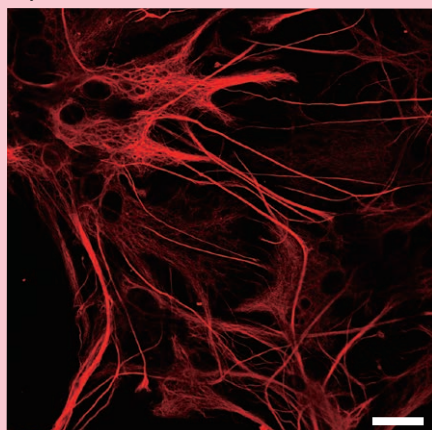
結果

glass bottom dish (ガラスボトムディッシュ)



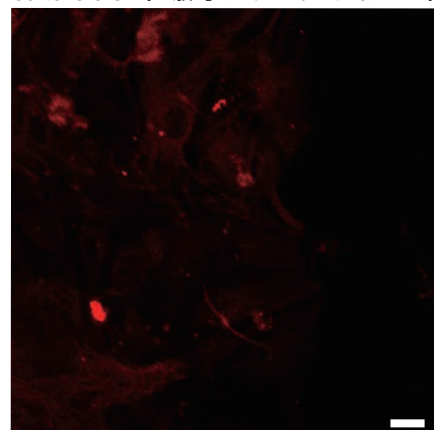
25 μ m

μ -Dish (プラスチックボトムディッシュ)



25 μ m

culture dish (一般的なカルチャーディッシュ)



25 μ m



お客様のコメント

ガラスボトムディッシュよりも細胞の接着及び生育がよく、免疫染色の蛍光シグナルも従来の条件と同様、良好に観察できる。

ibidi
プラスチックボトム
ディッシュ
 μ -Dish

タイムプラスに最適! 細胞の生存率が飛躍的に向上!

- ガラスボトムより細胞接着性が良好 (ibiTreat)
- 低い細胞毒性 (接着剤不使用)
- 細胞培養効率が向上 (ガス透過性プラスチック底)
- 蒸発を最小限に防止 (ロック付きの蓋)
- 底面からの蛍光観察が可能 (低い自家蛍光)

- 直径 : 35 mm
- 培養エリア : 3.5 cm²
- 観察エリア : 21 mm
- 底面厚 : 175 μ m
- 屈折率 : 1.517
- アップ数 : 56

